

# やしきだ綾香

# あやか

## 江東区議会自民・参政・無所属クラブ

# 区政レポート

### 2025 春号

発行：江東区議会自民・参政・無所属クラブ  
〒135-8383 江東区東陽 4-11-28  
やしきだ綾香事務所  
〒136-0074 江東区東砂 3-17-17  
TEL 03-3646-5024  
FAX 03-3646-9766  
MAIL yasikidaayaka@yahoo.co.jp  
屋敷田綾香

100% 砂GIRL

令和6年度第4回定例会(2024年11月)での質問内容です (Q:やしきだ区議の質疑、A:行政側答弁)

## ① 部活動の地域連携・地域移行について



### 部活動を通じた能力の向上

やしきだ 本区では現在、各学校の部活動の設置に偏りがあり、生徒の能力を伸ばす環境が整っていないため、区外の学校に進学や転校してしまったケースがあると聞きます。現在、区で拠点校方式で行なっているのは「特色ある部活動」であるセーリング、女子サッカー・カヌー・俳句のみ。早急に施策を検討すべき。

Q 教育委員会 設置可能な部活動は学校によって異なり、生徒の希望する部活動がない場合、他校を選択ケースがあることを認識しています。今年度は試行事業を行い、学識経験者や学校、保護者、地域団体の代表らと「休日部活動の地域連携・地域移行推進会議」を設け、検討、環境整備を進めています。

### 地域移行を契機とした 新たな江東区の部活動のあり方

やしきだ 通学先に希望の部活動がない生徒の選択肢を広げ、スポーツや文化活動に取り組む子どもを増やすためにも、地域連携・地域移行を契機に、学校拠点型活動の拡充が必要だと考えます。また、活動に関わりたい教員を活用することで、行政主導の拠点校設置が可能と考えます。

A 教育委員会 地域クラブ活動に移行するにあたり、生徒が希望する活動を主体的に選択できる環境の整備が必要。そのためにも、拠点校方式は地域クラブ活動の運営方法の一つとして有効と考えます。

一方で、種々ごとに地域バランスを考慮した複数の拠点校を設置する必要があるなどの課題もあり、よりよいあり方を検討すると共に、教員の兼職兼業制度の整備により、人材の効果的な活用も検討します。

Q 公立学校のあるべき活動の姿

A 教育委員会 現在も費用を徴収している部活動は多く、保護者アンケートでも一定の負担はやむを得ないという声は多くあります。しかし、参加費等の増加により生徒が活動を諦めることはあってはならないことであり、自己負担額については慎重に検討します。

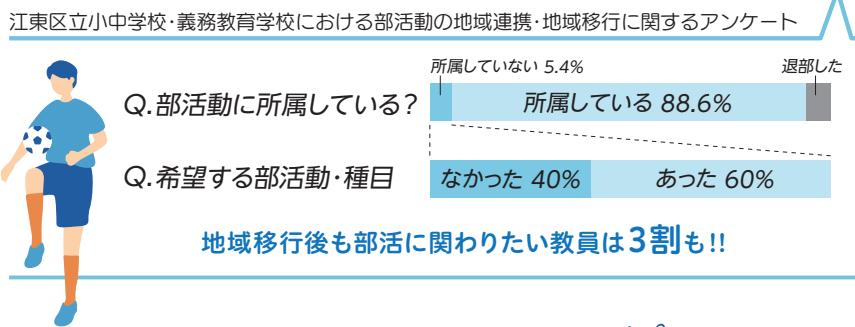
Q 部活動に所属している?

所属していない 5.4%	所属している 88.6%
--------------	--------------

Q. 希望する部活動・種目

なかつた 40%	あつた 60%
----------	---------

地域移行後も部活に関わりたい教員は3割も!!



部活動は明治時代の学校制度発足と共に始まり、思いやりや人間関係の構築、生涯学習の基盤となる重要な役割を担っています。金銭的負担による選択肢の制限をなくし、公平性を確保するため、江東区のすべての子どもが学校に関係なく希望の活動ができる仕組みづくりが必要ではないでしょうか。



### 「ウォーカブル」なまちづくり

やしきだ 世界では「ウォーカブル」な街づくりが進み、日本でも健康寿命延伸や孤立防止につながる取り組みが注目されています。本区も計画的な推進を。23区のうち18区が参加する「ウォーカブル推進都市」に本区も参加し、歩きたくなる街づくりを進めるべき。

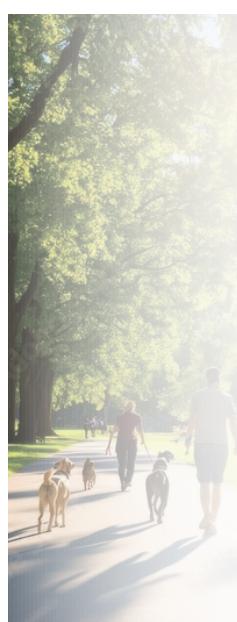
A 江東区長 「都市計画マスターープラン」に基づき、安全部構想が策定されています。「東陽町周辺地区」及び「南砂町駅周辺地区」を集中的に事業化する重点整備地区として選定していますが、現在の進捗・取組状況は?

Q 江東区長 東陽町や南砂町駅周辺を重点整備地区として、エレベーター設置や点字誘導ブロックなど、ハード面のバリアフリー化を推進しています。

### 現在のバリアフリー化への取り組みについて

### 今後のバリアフリー化への取り組みについて

Q 江東区長 高齢者や外国人の増加、価値観の多様化、DXの進展に伴い、新たな公共空間の整備が求められています。ユーバーサルデザインを含めたバリアフリー基本構想の改定を進めます。誰もが使いやすい「安全・安心なまちづくり」を目指し、ハード・ソフト面で取り組んでまいります。



あやかの考え方

特に、この視点が日本で注目されるきっかけとなったのは、東京医科歯科大学と千葉大学による研究です。この研究では、日本の65歳以上の高齢者76,053人を対象に約3年間追跡調査を行い、「近隣の歩道面積割合」と「認知症発症との関係」を調査しました。その結果、歩道が多く整備された都市部に住む高齢者は、認知症の発症が少ない傾向があり、歩道面積

が少ない地域と比較して、認知症発症リスクが45%低いことが示されました。この研究結果を受け、認知症に優しい街づくりを推進するには、快適な歩行空間を整備するウォーカブルな都市デザインが健康増進につながると考え、本区としても「住むだけで健康長寿」を目指した街づくりが重要になると考えます。

あわせて知りたい



江東区都市計画  
◆マスターープラン



江東区交通バリアフリー  
基本構想▶

